

〔翻 訳〕

『スペクテイター』 (64)

——第610号から第619号——

門 田 俊 夫

第610号 1714年10月22日 (金曜日)

【ティッケル】

人生が静謐のうちに流れていけばよい。
そのように、いかなる騒擾も蒙らずに、
わが日々が過ぎて行くならば、私は名もない老人
として死んでいこう。死が重くのしかかるのだ。
すべての人にあまり知られていながら、
己自身を知らぬままに死する者には。(セネカ)¹⁾

しばしばユダヤ人が彼らの期待する解放者の偉大さを外面的な虚飾で飾り立て、想像力によって人々の間に大混乱を引き起こす人物として表現し、カエサルとかアレクサンドロスのお粗末な野心に駆り立てられている人物に仕立てていることを不思議に思っただけで済ませた。彼を普遍的な慈善の創始者として、私たちの情念を純化させ、私たちを高揚させ、不死に対する様々な考えを提供し、救世主の栄光を作り上げている些細な壮麗さを軽蔑するように教えるのだと考えるとき、彼がありのままに現れる方がはるかに輝かしい存在となります。

ロンギノスによると、「それ自体を軽蔑することが偉大なのだから、何一つ偉大と呼べるものはない²⁾」ということです。富を所有しても偉大さの肩書がつくことはありません。なぜなら、こういった富という贈物を軽蔑し、その欲望を超越していることが心の偉大さで見なされるからです。それゆえ、世間で知られて人々の耳目を集めている人々よりも身を潜めている人たちにこそ、偉大な人物が数多くいるものと考えています。もしウエルギリウスが家庭的な不幸によって田舎での世に知られない生活から追い出され、ローマにやって来ていなかったら、彼は耳にされることはなかったに違いありません³⁾。

1) セネカ『テュエステス』398-403

2) ロンギノス『崇高について』7

3) 紀元前42年のフィリピの戦いがあったのち、ウエルギリウスは農地を没収された。フィリピはマケドニアの都で、カエサルを暗殺したブルトゥスとカッシウスをアントニウスとオクタヴィアヌスの連合軍が破った地。

大いにあり得ることですが、理性と啓示の双方から人々の行状を覗き見している聖霊あるいは天使がいると考えると、彼らの私たち人間に対する考えは、私たちがお互いに抱いている考えとは大きく異なっているのです。彼らが現在生きている重要人物のリストを差し出せば、私たちが作成しているリストと大きな隔たりがあるに違いありません。

私たちは肩書の豪華さ、学識の誇示、戦勝の評判に幻惑されます。一方、彼らは狭量な人たちが貧困と呼ぶ重圧の中で忍耐と感謝を忘れない田舎小屋の哲学者に目を向けます。彼らは軍隊とか華やかな宮廷の偉人たちには目もくれず、しきりに人目に付かない脇道でひっそりと暮らしている偉人を見つけ出します。彼らの目には何万人もの部下の先頭に立って行進している將軍よりも、夕暮れ時に散策している賢人の方が光り輝いて見えるのです。神の御業を冥想すること、自発的な正義を行うことで私たち自身が不利になるようなこと、善行への大きな関心、他人の不幸に黙って涙を流すこと、密かな欲望とか憤怒を断ち切ったり抑制したりすること、要するに、心から謙虚であること、あるいはその他美德を行使することは、彼らの目には輝かしいことであり、偉大で立派な人物と呼ぶ行為となります。私たちの中で最も有名な人々は、しばしば、憐憫と軽蔑と憤怒の眼差しで見られますが、一方、最も目立たない人々が愛情と賞賛と尊敬の眼差しで見られる訳です。

現在の思索の教訓は、人々の非難や喝采に惑わされることなく、知恵が正しいときの人物を考えるべきであり⁴⁾、人間性を飾り仕上げとにならないものは何一つ偉大あるいは輝かしいものとして通用しないということです。

裕福なリュディア王ギョエースの話は現在の目的にとって注目すべき例証となります。ギョエースから誰が最も幸せな人物かと尋ねられた神官は、アグラウスだと答えたのです。自分の名前が挙げられるものと考えていたギョエースは非常に驚き、このアグラウスという人物は一体何者なのか知りたくなりました。いろいろ尋ねて見て、アグラウスという人物は終始庭と家の周囲ある2、3エーカーの土地を耕している無名の田舎者だと分かりました。

本日の思索はカウリーによるこの話に関連する物語で締め括りたいと思います⁵⁾。

こうして、(誰にも知られず、神々しか知らず、それゆえ、神々を愛している)アグラウスは、名もなくひっそりと暮らしていたアグラウスは今や不滅の名声を付された。裕福な王であり、邪で偉大なギョエースは厚かましくもデルポイの神託所で、全世界の目である神よ、あなたは私より幸せな人を見るのかと尋ねた。人にへつらうのを拒絶する神は、アグラウスの方が幸せだ、と答えた。しかし、ギョエースは非常に激怒して、

4) 『マタイによる福音書』第11章第19節。

5) アブラハム・カウリー『散文および韻文によるエッセー』(1668)「田園生活」。

そのアグラウスというのは一体誰のことかと叫びました。そのような王がいると聞いたためしはない。地球上どこを探してもそういった名前の王がいないのは確かだった。崇高な家柄が神々に由来するその名を持った年取った偉人が生きているのか。戦いで驚くべき勝利を取め、神のような名誉を授けられた偉大な将軍なのか。それとも際限のない富を所有している人物なのか、とギョエースは言った。そんな人はいるわけがない。一体アグラウスとは何者なのか。いくら探しても無駄だったが、やっと人目につかないアルカディアの谷間にいるのを見つけ出した。

(アルカディアの生活は常にひっそりとしたものだったが) そうです、(彼が一度しか見たことのない) ソッフォーの町の近くに、王を妬ませたこのアグラウスがいたのです。彼の幸せは神々も証言し、この偉大なアグラウスは彼の所有する狭い土地で作業をしていたのです。ああ恵み深い神よ(謙虚な神々の中であなたのことを口にするのが認められるなら)、どうか私をそのような密かな場所で演じさせてください、衰えつつある老齢の最後の単調な舞台を。無駄に終わった長い航海の後で、この穏やかな港を私の船着場にしてください。天国の休息を心から願います。私の命を眠らせて、死を迎えさせてください。

第611号 1714年10月25日(月曜日)

あなたの親は女神ではない。血統の祖もダルダヌスではない、不実な男よ、あなたを産んだのは固い岩山もすさまじいカウカスス、お乳を口に含ませたのはヒュルカーニアの雌虎だ。

(ウエルギリウス)¹⁾

少しでも報いがあるべき不幸な人々の役に立つためなら、私は喜んですべてを先延ばしにします。そこで、今しがた手元に届いたつぎの手紙を、このご婦人は実にうまく書かれていますので、一切手を加えずに本紙に掲載することにしました。

観察者様

1) ウェルギリウス『アイネーイス』4.366-7

自負しているのですが、貴方はわたしや他の女性たち何名かが置かれている不幸に哀れみをかけてくださるだけでなく、もし可能ならその不幸を取り除いてくださいます。貴方がお気を悪くなさらないことを願いますし、これでわたし自身の厚かましい振る舞いを正当化しようとは考えていませんし、貴方に正当化していただきたいとも思っていません。そうです、貴方がこれまでの紙面で何回か類似の誤った処置をうしろめたく思っている人たちを厳しくたしなめていらしたことを承知しています。わたしはやっと16歳になったところでした。自惚れることなく奇麗と言えるかも知れませんが、わたしは不実な男から求婚されたのです。この男は結婚の約束をして、わたしをこの上なく不幸せな女にしました。彼はとても優しい両親からわたしを奪って3か月経たないうちに捨てたのです。両親はわたしに会おうとも消息を尋ねようともしませんでした。もしわが家の召使がいなかったら、わたしは確実に食べるものがなくて死んでいたことでしょう。しかしながら、間もなくして天佑でわたしの惨めな状況に変化が訪れたのでした。ある紳士がわたしを見て、気に入り、結婚してくれたのです。両親とはよりを戻しました。それまで惨めだったのですが、状況が変化したことでわたしも幸せになれるはずでした。でも、お分かりいただけるように、わたしには我慢できないようなことがあったのです。貴方は道義心も思いやりもお持ちですので、貴紙で必ず彼らが間違っていると知らせていただけるものと確信します。わたしは結婚して5年ほどになりますが、この間外出するには必ず夫の許可が必要だったので。何名かの親戚のしつこい要請によって、わたしの性分に反して頻繁に外出せざるを得ないのです。そんなとき、わたしは耐えられないほどの苦しみを覚えます。この人、いやどちらかと言えば化け物は、わたしの出かけるどんなところにも出没するのです。卑劣な悪党です。わたしが不快で意地悪な訪問や約束を認めないので、彼はわたしを破滅させるためにあらゆる手を尽くします。彼はわたしに友人もお金も持たせてくれませんし、彼が運悪くたまたまわたしが宝石の煌めくボックス席にいるのを見掛けるまでは、わたしに口を利く価値がないと考えていたのです。このとき、彼の情熱が甦りました。そして偽善者は悔悟者のふりをしました。以前わたしを誘惑するために使ったあらゆる手管を弄しました。わたしはもう騙されることはありません。わたしは彼の実に不愉快な情熱を忌み嫌います。彼はそのことに気づいていますので、悪意あるいは気晴らしから、彼は自ら進んでわたしの正体をあばきます。いつも人前で熱心に悪意を漲らせている彼を見掛けます。要するに、彼は知人たちに私たちの不幸な関係を喋っている訳です。彼らも自分たちのことを喋りますので、数多くいる仲間たちの中では秘密は何一つありません。彼らは親密な交際をする資格があると思っています。彼らがわたしに挨拶をし、わたしが不作法な応じ方をすると、わたし自身にも彼らにも感じの悪い馴れ馴れしい態度を見せられて困惑させられます。もしわたしが彼らから目をそらす、あるいは不機嫌に見えると、彼らは関心を無くして、隣の人に耳打ちをし、その人がまた隣の人に耳打ちをします。その結果、全員が目がわたしに注がれることになります。それどころか、彼らは誤解して「一人の男性に好意を寄せる女性は百名の男性に好意を寄せるのだ」という忌まわしい虚言を口にします。何卒、このやり方がどれほど度量の狭いことか非難されて当然の彼らに知らせてやってく

ださい。彼は自分に照準が当てられていることが分かり、おそらく、他の人たちの傲慢さにも終止符が打たれることになるかと確信します。不幸な女性の運命は崇められているのです。男性はわたしたち女性が恥辱と憎悪でもって考えなくてはならないことを自慢げに口にして得意がります。貴方はそういった忌まわしい慣習を嫌悪させるコツをご存知です。わたしのために、確信しますが、わたしのような不幸な状態に置かれている女性たちのために、好意を自慢したり、女性の正体をあばいたりすることは、嘘を受け入れ、あるいは横顔を張られて憤慨しないことと同様に、男性にとっては恥すべきことだということを分からせてあげてください。

草々、レズビア

追伸：先週水曜日²⁾、寺院で新たな挑発を受けましたのでさらに一層苛立っています。

私は優しく不幸なレズビアの意見に全面的に賛成です。彼女のような状況の女性への侮辱は、嘘をつかれたり殴られたりしたときに柔順にしているのと同様に、男性にとって恥すべき振舞いです。その真実をつぎの意見で例証したいと思います。

無礼な言動、危険にさらされるような無礼な言動に対して抵抗せずに怒りを抑えることは臆病の印です。やり返す力のない人を侮辱することが臆病の印であることは言うまでもありません。それゆえ、この度量の狭い男性が傷つける無力な婦人をどのように呼ぶとしても、私としては何のためらいもなく、彼にはお返しとして「臆病者」という呼称を授けたいと考えます。

婦人を叩くほど威厳を無くしてしまえる人は、男女両性の信望を回復することは出来ません。なぜなら、力のある人の弱者へのそういった扱いを正当化するほどの強烈な挑発は考えられないからです。気の毒なレズビアが置かれている状況では、殴打よりもひどい侮辱に仕返しをするために誰にも訴えることは出来ません。もし彼女が口を開くことが出来れば、卑劣な男は分かります、夫や兄弟や寛大な友なら彼女が正当な扱いを受けて当然だと思うだろうと。

寛大な人の場合は、敵対者に対していくら腹を立てても、怒りの相手が力を失うと、敵意はなえ、消えてしまいます。親しい知人に対する嫉妬と不満でいっばいの仲違いをした友は、かつて大切だった女性が不幸に耐えていると、優しさで自責の念でいっばいになる傾向があります。熱心に懇願し大喜びで受け入れた好意を忘れ、彼自身が引き起こした不幸を侮辱し、最大の喜びを与えてくれた苦痛を弄ぶことが出来る忘恩を何と呼んだらいいのでしょうか。天地創造で存在しているのは一人だけで、その人の職分は誘惑に負けやすい人々の愚かさにつけこみ、彼自身の手管によって生み出された苦しみを喜ぶことです。この例に倣う人たちが報いを受けることは十二分に承知しているところです。

麗しい寄稿者のことは彼女自身の知恵と謙虚さの教えに委ね、彼女の敵対者と卑劣な共犯者たちのことは彼ら自身の良心の痛みを委ねることにして、本紙の締め括りとして注目

2) ジョージ1世の戴冠式が挙行された。

すべき復讐の例を取り上げることにします。これはあるスペインの婦人が罪深い恋人に対して取った仕返しで、この上なく傷つきやすい情熱が憎しみに変わったときのすさまじい心境を明らかにしており、若くて軽率な人々に背徳の恋を思い止まらせることになるかも知れません。この話は非現実的に見えるかも知れませんが、実話だとのことでした。

それほど昔のことではないのですが、イギリス人紳士が夜マドリードの通りで小競り合いになり、運悪く相手を殺害して、教会の入口に逃げ込みました。ドアに寄り掛かっていると、ドアが開き、教会内部がかすかに光っているのを見て驚きました。彼は勇気を出してその光の方へ進んで行きました。すると、白い服を着た女性が片手に血の付いたナイフを持って墓から出て来るのが見えて驚愕したのです。その亡霊は彼に近づいて来て、そこで何をしているのかと尋ねました。彼は亡霊に出会ったのだと思い、包み隠さず真実を告げました。すると、彼女はつぎのように語ったのです。「見知らぬ人よ、あなたはわたしの思うままです。あなたと同じように、わたしも人を殺しました。わたしは貴族の家の修道女です。卑劣な偽誓者がわたしを誘惑し、それを自慢したのです。わたしは直ぐに彼を殺害させましたが、殺人だけでは満足しませんでしたので、寺男を買収して彼の墓に入り、彼の遺体から偽りの心臓をくり抜き、今その裏切り者の心臓を手に行っている訳です」と。こう言うと、彼女はその心臓をズタズタに引き裂き、足で踏みつけたのでした³⁾。

第612号 1714年10月27日（水曜日）

父祖やなお古き祖先の名を誇り、全系譜を辿って
ラティウムの王を列挙するムラーヌスは、アイネイアス
に戦車から投げ落とされ、巨岩の重みで踏みつぶされる。
(ウェルギリウス)¹⁾

人々のために尽力した人への感謝の念からだけでなく、そのお手本に倣うように奨励することになりますので、立派な先祖を家系に持つ人々に敬意を払うことは大いに賞賛に値します。しかし、これは偉大な人物の子孫に授けられる誉れであって、求められて与えられるものではありません。私たちに先祖を思い出させようとする人々は先祖に比べていかに自分たちが劣っているかを明らかにするだけです。機知や美点や力や富を鼻にかけることにはある種の自惚れがあります。なぜなら、そういったことを伝えることは他者にとって喜びあるいは利点となるかも知れないからです。でも、私たちは長所を持つことが出来ませんし、敬意を要求すべきでもありません。なぜなら、私たちの先祖は私たちとは無関係に立派に振る舞ったからです。

つぎの手紙は、思いますに、違和感のない新たな視点から私が触れています愚行を嘲笑

3) マドリードでのイギリス紳士の話は真実だと考えられるが、詳細は不明。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』12.529-32

しています。

観察者様

すべての家の家系図が保存されていたら、おそらく家柄という理由で重んじられたり軽んじられたりされる人は誰もいないに違いありません。先祖代々偉大な人物の末裔だと気づかない乞食はほとんどいませんし、最高位に就いている人たちの中にも先祖に卑しく貧乏な人がいたのだと気づかない人はいません。現在生きている人たちの中でそれぞれの役割を演じているとき、同じような人物が一斉に登場する系図を見るのは愉快的なものです。一族に著名人がずらっといる紳士が、ウェルギリウスのようにアイネイアスに自分の子孫を見渡させ、祖先全員に眼前で検閲させたと想像して見てください²⁾。彼は実に様々な気持を込めて、羊飼いや軍人、政治家や職人、王子や乞食たちが5千年という時を歩く姿を目にするに違いありません。ほろ服と紫色の服、職人の道具と王笏、威厳の記章と恥辱の標章と変化する光景に運命のいたずらを知って、彼の心は沈んだり躍ったりするに違いありません。歴代の家系図が輝いたりぼやけたりするたびに、彼の恐怖と不安、感情の高ぶりと屈辱感が交互に湧いて来るに違いありません。

古い邸宅に掛かっている大半の家系図には、必ずその一覧の最初には偉大な政治家か名誉ある権限を持った軍人がいます。彼および彼のつましい先祖たちを産んだ誠実な職人は、家系図から消されます。一族の高貴な創始者に父親がいたということが想像できません。誇らしげな家系をもっと遡ることが出来れば、再び浮上する希望のない大勢の小売商や田舎者に出会って彼らを見失ってしまうはずです。昔のアップピア街道のように、何マイルも走って、沼地の中で途方に暮れる訳です。

私は最近、この種の一族に対する熱狂に取りつかれている田舎の老紳士の元を訪れました。彼は書齋で一族の古い記録簿を調べていました。その記録簿は最近見つかったもので、羊皮紙に書かれており、枝分かれした木の形状になっていました。私の血に彼の血が少し流れていることを知ると、彼は私にこの由緒ある木の枝を見せてくれ、不必要な枝を取り除く助言をして欲しいと言いました。

二人して伝承で知っている先祖の3、4人にざっと目を通しましたが、この老紳士の胸をドキドキさせていると気づいたのですが、ロンドンの参事会員に目が留まりました。この参事会員の父が牧畜業者だと分かると、彼はひどく狼狽しましたが、肩書の最後に特定治安判事となっているのを見て、気を取り直しました。時折木に目をやりながら事態は順調に経過しましたが、運悪く彼が資産を大きく増やしたと言われる織物商兼仕立屋に目を留めました。彼はまるでその息子の後の紳士はいなかったかのようにこの息子を枝から切り離そうとしました。その息子は誠実な父親が購入した荘園のひとつを抵当に入れたという記録があったのです。メアリ女王の治世に信仰上の理由で火刑になった織工は情け容赦なく切り取られました。荷馬車から落下して亡くなった自由農民も同様でした。大反逆

2) ウェルギリウス『アイネーイス』6.756-885

罪で打ち首になった人を見たときには得意満面になりました。しかし、その勝利感は、羊泥棒で縛り首になった先祖を見て相当弱まりました。騎士の一族との縁組によって善良な親族の期待は大きく膨らみましたが、不幸なことにこの枝は実を結びませんでした。一方、乳絞り女のマージアリーは2本になっており、老紳士がすっかり落ち着きを無くすほど繁茂して多くの若枝を出し、実を沢山つけてしまっていました³⁾。この不名誉に出会った彼は、私を慰めるために、他の10倍も実をつけている1本の枝を選び出しました。彼は私にこの枝は他のどれよりも大切にしているのだと言い、安心しなさいと言うのでした。異常に成長したこの枝はウェールズの女相続人からの接ぎ木で、それだけで小さな木立が出来るほどの子供たちが沢山ついていました。主に労働者や羊飼いで構成されている系図の幹から、巨大な農夫の若枝が出ていました。この若枝は枝分かれして自由農民となっており、最後は請願を提出して王のために尽くしたことで爵位を与えられた州長官となっていました。一族の評判を悪くしていると思われる名前いくつかは手違いと見なされ、朽ちたあるいは枯れたものとして切り落とされました。一方、肩書のついていないかなりな数の人々については、老紳士は家系図の欠陥を補うために各人の末尾に「郷土」と付け足しました⁴⁾。

このように切り取られ、整えられ、洗練された家系図は2、3日以内に大きな上等皮紙に転記され、大広間に飾られました。そして、その家系図は、毎週日曜日の朝になると、教会に出掛ける準備が出来るまでの間待っている小作人たちの尊敬の念を引き寄せ、彼らはこれほど大勢の先祖を持った人はナイトの称号を貰ったのかそれともせめて特定治安判事になったのかと考えるのです。

第613号 1714年10月29日（金曜日）

痛ましい恥ずべき和平の検討。(ウエルギリウス)¹⁾

会話を独占することは不作法だと考えられています。そのため、私は週に3回接客日を設けていますが、時々喜んで友人に言葉を差し挟ませます。こうすることで読者にとっても私自身にとってもいくつかのメリットが生じます。一つ目のメリットとして、若くて控え目な著述家は活字に生まれるチャンスが生まれます。さらに、町の人々は様々な喜びを持ち、後代の人々は個人的で家庭的な生活に対するこういったささやかな意見を知って現代がどのような時代であるかが分かります。そこから私が入手するメリットは以下の通りです。今後の思索のための時間的余裕が出来、人々のために利用する手掛かりを獲得し、助言を与え、不満を取り除きます。そして、私が活字にする数通の手紙の間にゆったりとした余白を残すことで、労少なくして見栄えの良いスペクテイター紙を準備します。

3) ウィル・メイブルの「家系図」は第203号に登場。

4) 第150号参照。

1) ウェルギリウス『農耕詩』4.564

観察者殿

金曜日の思索にはとても満足しました²⁾。ご意見は堂々としており、最後まで読者全員に感銘を与えるものとなっていました。でも一つだけ言わせていただくと、貴殿は心の安らぎと引退生活についてとても感傷的な書き方をしているらしいですが、憂鬱という感情におもねり、真に輝かしい行動をする人たちを意気消沈させています。肩書や誉れは美德の報いであり、私たちがそういった人たちに心を動かされるのは当然です。軽薄な人たちは外面的な華やかさにいい気になりますが、鮮やかなルビーやエメラルドのまばゆいばかりの緑を褒め称えることが、バラやギンバイカのほのかな東の間の美のように真に思慮深いものでないのかその理由が私には理解出来ません³⁾。世間から隠れた並外れた才能の持ち主がいるとしたら、それは彼らの性格の汚点のせいにはすべきです。彼らの精神というよりもむしろ彼らの運命のいやしさのせいだとは思いません。アグラウスの物語をととても楽しく語っているカウリーは宮廷を知っていましたし、賞賛を意識していました。「みんなに知られるようになり、来るべき時代を私の物にするには、私はどうしたらよいか⁴⁾」といった言葉は殊勝な野心のなせるところでした。度重なる失望を経験した後、宮廷で異彩を放つことを諦めてはじめて、彼は自分のことを憂鬱なカウリーと呼び⁵⁾、孤独を賞賛したのです⁶⁾。魂は活発な行動基準となります。それゆえ、目の前にある舞台から身を引く彼はシッシツと舞台から追い払われるべきです。彼は目的を満たすことを拒むのですから徳高いとは考えられません。正直言って私は輝かしいお手本を見習おうとする誠実な野心に掻き立てられています。プレナムとラミイの戦いで、私は一度ならず軍人になりました。そして、詩人たちが非常に堂々と称える活躍を目にしたとき、密かに私もその著名人の仲間入りをしようと思込みました。しかし私の願いはむなしく、活躍したいという願望も願いだけで終わっています。私はひっそりと世に埋もれており、私の喜びは数多くの立派な有能な人々が王座の輝きに彼らの心地よい輝きを付け加えるのを見ることだけです。これでおしまいにしますが、私は心から張り合っているのですが妬みは一切ないのでお分かりください。

貴殿のファンを名乗るウィル・ホープレスより

1714年10月26日、ミドル・テンプルにて

前略

貴殿は以前貴紙の主題として一度ならず「雄弁」を取り上げていらっしやいましたが⁷⁾、クウィンティリアヌスの法則と無縁な人たちが雄弁だとは考えておられなかったものと思

2) 第610号。

3) アレキサンダー・ポープ『道徳論集』147-8行。

4) カウリー「モットー」1-2行。

5) カウリー「苦情」1と6連。

6) カウリー「孤独について」。

7) 第407号, 541号参照。

います。つまり、私に言わせれば、彼らはその著者のことを耳にしたこともなく、キケロとかデモステネスは言うまでもなく、現代の著者にも精通していません。私が言っています人々はよく見かける品性を欠いた乞食なのであって⁸⁾、実際のところ、私は石よりも少し柔らかい心の持ち主に訴えかけているのです。隣人たちより人間性があると自負しない私に関しては、しばしば判事執務室からポケットにお金を入れて出掛けて行き、ただただこういった見せかけの哀れな連中に与えて無一文になって帰って来るのです。要するに、私は見たこともないような美人の目よりも、こういった見下げ果てた連中の表情に雄弁を認めるのです。貴殿にお願いしたいのですが、どうかこういった強力な雄弁家から身を守るために何らかの心得を定めていただきたいと思います。そうしていただかないと、私は法律の職業から離れて、もっと利益の上がる物乞いに必要な資格を獲得する努力をしなければならなくなります。しかし、私がいずれの能力で異彩を放つことになっても、引き続き貴紙の読者でありたいと考えています。

草々、ジェイ・ビー

前略

先週、ファニー・フィクル夫人が生涯の恋人の選択を貴方の明確な裁断に委ねているスペクテイター紙を拝読したとき⁹⁾、私は類似のいやもっと厄介な問題での貴方の助言を必要としているのだと思い、しばらくの間等しく励まして来た7名の謙虚な信奉者の性格を描写するためにペンとインクを手に入れました。しかしなんと、この心地よいテーマに思いを馳せ、私がとても目をかけている人物の利点を考えているとき、偶々鏡をのぞいたのです。治りかけている天然痘の痕跡を見て、すぐに私の魅惑的な手管と虜をなくしたことを知って悩みました。この不幸で間の悪い発見をしたとき陥った私の困惑は言葉では言い表せません。本当のところ、私は女性の寄稿者のケースへの思いに取りつかれ、私自身の目論見に専念していましたので、私は永遠の勝利者だと考えていたのです。

この心地よいテーマで楽しむ資格がなくなると分かりましたので、貴方あるいは貴方のおっしゃる恋の詭弁家に¹⁰⁾、現在の私の状況に対する助言をお願いすることに致しました。先だっの病気の害意によって変わってしまった肌の色や整った顔立ちは取り戻せないことが分かっています。だが絶望はしてなく、貴方が逃亡者の一人だけでも取り返す方法を提案してくだされば、その損失はある程度修復可能ではないかと思っています。

そのうちの一人はほかの人たちよりも特に私に借りがあります。この人は個人的な理由からお忍びの恋人になりたがっていて、いつも恋文を届けて来たのです。病中の私は用心して、恋の文箱の鍵を枕の下に置きました。そして、部屋の鍵を開ける音がしたら、密通が露見してはいけなないので命を危険にさらしてベッドから起き出したのです。

私はかつて私たち女性が日々実践に移している何気なく信者席の全員の目を引き寄せる

8) 第232号、430号参照。

9) 第605号参照。

10) 第591号参照。

ためのあらゆる手管を駆使していました。午後の接見会では信奉者の数を自慢しましたが、今では私はまったくの別人となっています。かつてのように魅力的な力を回復出来たら、かりに数多くの求婚者がいたとしても、私は複数の信奉者を持ちたいという野望は抱かないと思います。厚かましい恋人たちのくだらない話にはたいてい嫌悪感を覚えます。どうしても認めなくてはなりません、紳士諸氏がいつもの慇懃さではなく、私の目の前で政治のことで言い争うのを聞く、そうでなければ、くどくど繰り返してこのような危険な病気から快復したことを感謝すべきで満足すべきだと言って私をうんざりさせるのは、とても異様なことだと思っています。祝福については十分理解していますが、このように言われることは嫌でたまりません。なぜなら、彼らからの助言は私を慰めるというよりむしろ侮辱しているように見え、過去の私を思い出させるからです。私はまだ鬱々とした考えを完全には克服できず、貴方のお考えで克服させていただくことを願っているのです。

貴方の指図にとって私がいかに有用であるかを示すために、該当者たちには（今そう呼べるとしたらですが）冬が終わるまでに顔色が元に戻らなければ、私は進んで引きこもり、彼ら全員を針で罰すると断言します。謙虚に入室を懇願し、私が軽蔑してそれを拒む彼らの姿をカーペットに描いて彼らに復讐をするのです。もし貴方がこれをひどい悪意をかみしめる手段としてお認めにならない場合は、貴方のお好みの下図をお知らせください。そうすれば、それを忠実に仕上げます。

草々、不幸せなモニミアより¹¹⁾

第614号 1714年11月1日（月曜日）

【ティッケル】

これからは、いかなる結婚の絆によっても縛られはしないと決意した。最初の愛が死をもってわたしを歎かせ、失望させてからは、結婚の閨も松明も本当に厭わしいものとなってしまった。

さもなくば、わたしもこのただ一つの過ちにおそらく屈したはず。

(ウエルギリウス)¹⁾

恋の詭弁家が以下のような報告をして来ました²⁾。

観察者殿

これまでの紙面で独身と結婚という二つの状態について扱³⁾、すべての人が順次これを経験して貰いたいと望んでいますので、本日は寡婦について述べることにします。いくつかのケースに遭遇しましたが、それぞれには郵便でしっかりとした返事をしております。

11) モニミアはトマス・オトウェイ『孤児』(1680)の主人公の名。

1) ウェルギリウス『アイネーイス』4.16-19

2) 「恋の詭弁家」は第591号に登場。

3) 第602号, 605号, 607号, 608号。

その事例は以下の通りです。

問：アモレットは夫の存命中に行ったフィランダーとの結婚の約束を履行する義務があるか否か⁴⁾。

問：夫の今際の際に二人の人物にはっきり約束したセンプロニア⁵⁾は好きな相手を自由に選べるか、それとも、新しい恋人ができたために二人を拒絶できるのか。

クレオラ⁶⁾はつぎのように尋ねています。心のやましくない素敵な若者から誓いそのものが罪深いものと聞いているのだが、夫がダイヤのネックレスをプレゼントしてくれたときの誓いにしたがって独身が続けるべきなのか、と。

またある人は、夫が回復し難いほどに衰弱しているとき、執拗に迫って来るとも素晴らしい紳士に身を委ねる寡婦に、その権利はないのかと尋ねます。

無分別な女性は厚かましくも、自分の長子よりも若い人と結婚するのは好ましいことかどうかと尋ねます。

誠実で上品な言葉遣いをする婦人はあれこれと褒め言葉を並べますが、自分が安心して身の振り方を決められるまで、適齢期の二人の娘を閉じ込めて置いてよいものかどうか気遣っています。

言葉遣いや綴り方から身分のある女性と思えるソフロニアは、自分には大きな資産があるがゆえに、資産がなくそのため自分の資産を管理するしか能のない怠惰で背の高い若者カミラスとの結婚は慎重にした方がいいのか教えて欲しいと言っています⁷⁾。

寡婦についてお話をする前に、私にはその理由の説明の仕方が分からない一点をあげて置かざるを得ません。つまり、常に同年の年取った未婚婦人より寡婦の方がもてはやされるということです。普通の人たちの間では、生気のない独身女性は身元の知られていない場所で店を出すのが普通です。そういった場所では、夫から貰ったと考えられる親指に嵌める大きな指輪⁸⁾がたちまち立派な独身女性を見下している陽気な寡婦を好む裕福な隣人の目に留まるのです。

実のところ、こういった女性たちを見ていると、彼女たちが置かれている様々な性格とか状況によって、寡婦は愛情を奮い立たせる者と同情を奮い立たせる者に二分されるのが分かります。

ところで、このテーマから漫然とお話しないことにしますと、主として寡婦の輝きを構成するものが二つあります。一つは亡き夫への愛情であり、もう一つは子供への配慮です。この二つに亡き夫への愛情から生じるもう一つを付け加えることが出来るかも知れません。前者二つに面目を施させる慎重な振舞いがそうです。

4) これらの名前は第401号に登場。

5) この名前は第45号、437号に登場。

6) クレオラはエフェソスの寡婦で第233号、377号、392号、609号にも登場。

7) ソフロニアは第33号、606号に登場。カミラスは第263号に登場。

8) 親指に嵌める大きな指輪にはしばしば紋章や銘が刻印された。

以上三つの資質を備えた寡婦は、徳高だけでなく卓越した人物となります。

この生活状態にあらゆる美德が伴いますと、そこにはとても卓越し、気高いものがありますので、現代の悲劇の中で最高に素晴らしい人物の一人であるアンドロマケの主題となっており、フィリップス氏がイギリスの舞台に登場させたとき大きな喝采を浴びたのです⁹⁾。

歴史上最も注目すべき寡婦はアルテミシア女王です。彼女は名高い霊廟を建てただけでなく、亡き夫の遺灰を飲み干し、当然建築物の不思議の一つと評価されているのですが、彼女が建てた霊廟よりも気高い記念碑の中に二人を閉じ込めた訳です¹⁰⁾。

アルテミシア女王は私が読んだ誰よりも第二の夫の格好の権利を手にしたように思われます。なぜなら、最初の夫の遺骨は何一つ残らなかったからです。現代のヒロインたちは夫をととても苦いビールと考え、最初の連れ合いの思い出を無くすという厄介な方法を講じるまでは第二のパートナーを受け入れることが出来ないとなると、不平を言う格好の根拠が与えられることになります。

古代の物語のこういった名高い例に寡婦の状態に関連した私たちの先祖が示した注目すべき繊細な例を付け加えることにします。これはカウエルの『法律用語辞典』¹¹⁾に記録されています。バークシャーのイーストおよびウェストエンボーンでは、慣習法上の借地人が死亡した場合には、寡婦は独身でいる間法律の言うフリーベンチつまり贍本保有権地を所有することになる¹²⁾。だが、独身生活が自制できなくなった場合には、その土地は没収されることになる。しかし、寡婦が黒い雄羊の尻尾を握って後ろ向きにまたがって出廷し、つぎのように言えば、財産管理人は慣習によって彼女に再びフリーベンチの所有を認めなくてはならない。

わたしは黒い雄羊にまたがって、娼婦のような姿で
やって参りました。クリンカム・クランカムのために
ピンカム・バンカムを無くしてしまったのです¹³⁾。
尻尾と戯れて、憂き世の恥をさらしています。
それゆえ、財産管理人様、何卒土地をお返しください。

同様の慣習はデヴォンシャーのトーレイ荘園や西部地方の各地で見られます。

近いうちに、公衆の面前で雄羊に乗るバークシャーのレディーやその他西部地方のデームの記録を提供することが出来ます。みなさんには寡婦のパレードをお楽しみいただきました

9) 第290号, 335号, 338号, 341号参照。

10) 小アジア、カリアの女王アルテミシアは兄であり夫であったマウソロス Mausolus の霊廟を建てた(紀元前4世紀の話)。これは世界の七不思議の一つに数えられた。なお、マウソロスは mausoleum (霊廟) の語源となった。

11) ジョン・カウエル (1554-1611) 『法律用語辞典』の初版は1607年ケンブリッジで出版された。

12) ジョン・カウエル 『法律用語辞典』参照。

13) OEDによると、クリンカム・クランカムとかピンカム・バンカムという言葉は、ねじれた物、入り組んだ物、複雑な物などを面白がって言う場合に用いられたとのこと。

いと思います。

第615号 1714年11月3日（水曜日）

【ティッケル】

幸いな者と呼ばれるのは、神々からの授かりものを、
賢明に使い、困難な貧苦に耐えることを知り、
死よりも極度の悪を恐れ、愛する友や祖国のため
死を恐れない者達だ。（ホラティウス）¹⁾

恐怖はとても強烈な感情だと認めなくてはなりません。なぜなら、これを抑制することは最大の美德と考えられているからです。恐怖は私たちの貯蔵庫に据え付けられていますので、私たちが進んで維持したい物がある限り、ピタッとくっついて離れないのは不思議なことではありません。ところで、人生とその楽しみというものは絶えず無くなってしまふのだという恐怖にさらされているとしたら、維持する価値のあるものはほとんどないに違いありません。私たちを不必要な不安から解放し、恐怖をそれにふさわしい対象に向けるのは信仰と哲学の務めです。

恐怖の苦しさや恐怖が生み出すさまじい結果を考えて見ますと、些細なことで恐怖に屈することがいかに危険であるか分かります。脅えるあまり発狂する人もいますし、不安のあまり命を落とす人もいます。一夜の不安で白髪になってしまった人の話はとても有名です：「若者を老人にしてしまうとは、なんと長くて退屈な夜であることか」²⁾。

こういった不安が罪の意識から生じるとしたら、それは理性の深刻な警告であり、哀れみを掻き立て、救済策はありません。神が不敬な者たちに向かって手を上げるのが明白な場合、死すべき人間の心はその手を阻むことは出来ません。恐怖については、聖書外典『ソロモンの知恵』に素晴らしい描写があります。そこではエジプト人が闇に閉じ込められて罰せられるのです³⁾。

罪深い人々が聖なる国民を抑圧していると考えられると、闇の牢獄に閉じ込められ、長い夜という足枷をされて、永遠の摂理から閉め出されたのです。彼らはそのひそかな罪が見つからないと思っているとき、忘却の暗いヴェイルの下で散らされ、奇怪な幻影に脅え悩まされたのです。自らが証言する悪は非常に臆病なものであり、良心の重圧を受けていますので、常に嘆かわしいものを予見します。恐怖は理性が提供する援軍にそむくことにほかなりません。全世界は明るい光に照らされ、その光をさえぎるものは何一つありませんでした。だが彼らの頭上には重い夜、その後彼らを受け入れることになる暗闇のイメージが広がっているだけでした。彼らにとっては暗闇ほど嘆かわしいものは他にはなかった

1) ホラティウス『頌詩』4.9.47-52。この箇所は鈴木一郎訳（『ホラティウス全集』玉川大学出版部、2001年）を一部改変して借用。

2) マルティアリス『警句』4.7.4

3) 『ソロモンの知恵』17.2-3, 11-12, 20-21

のです。

妥当な根拠のある恐怖には、いかなる救済策も提案することは出来ませんが、(心にやましいことがなく、正義と誠実という分かり易い道を歩み、自然な心構えあるいは凝り固まった偏見あるいは真剣な反省を怠ることで、この卑屈で恥ずべき恐怖を覚える)人は友であり保護者であり父であるあの慈悲深い神以外には恐怖に値するものは何もないのだということを熟慮した方がいいでしょう。このことさえ心に強くとどめておけば、いかなる苦難も恐ろしいことはありません。ちょっとした不面目に神の栄光で報いてくださる神の是認を確信していますと、いかなる重荷であっても私たちに汚名を着せることは出来ません。苦痛や病気も決して色褪せることのない喜びへと急き立てているときには、痛ましいことは何一つないのです。死は生命の始まりに過ぎないのだと確信すれば、死も苦痛ではありません。死ぬことを恐れない生き方をする人は、何か偶発的な不安に身を引き渡すとしたら自己矛盾しています。

高潔な人の大胆さについてはホラティウスが見事に描写しています。これは何度繰り返してもし過ぎることにはなりません。

信義を重んじ、悪にも屈せず、執拗に正義を求める彼は
 粗暴な暴徒たちの横柄な振舞い、無意味で騒がしい叫び声
 を馬鹿にする。暴君の獐猛を欺き、仮借ない相貌や無情な声
 をものともせず、もっと卓越した様子を見せて微笑む。
 アドリアの黒い湾を变形させて嵐に巻き込む激しい旋風も、
 彼の頑強な魂の力を動かすことは出来ない。
 空から雷を浴びせる怒れるユピテルの赤い手も、
 逆巻く怒りと逃げ出す力を与えることはない。
 彼を取り巻く全世界が崩壊して混乱に巻き込もうとも
 彼は平気な顔をして、巨大な亀裂の音に耳を傾け、
 崩れゆく世界の只中であつても無事なのだ⁴⁾。

恐怖のむなしさはさらに例証できます。考えて見ますと、まず、私たちが恐れることは起こらないかも知れないのです。正確に算定される計画というものはあり得ないのですが、ほんの些細な事情が介入することで計画が台無しになることがあります。人の心を喜びに仕向け、遠くからその思いを理解なさる神は、数限りない出来事あるいは人々の気持の目の変化によって、非常に微妙な計画をくつがえし、それを自らの信奉者のために振り向けるかも知れません⁵⁾。

つぎに、私たちが想像する邪悪なことが起こるかも知れませんが、それは実際よりもは

4) ホラティウス『頌詩』3.3。この箇所も前掲書借用。

5) 『詩篇』第139篇第2節。

るかに我慢できるものだということを考慮すべきです。順調な生活にも必ず不幸が付きまといますように、逆境にも必ず恩恵があります。偉大な権力者に妬みや野心という苦しみがないか尋ねて見てください。困窮者に心の安らかさという喜びを味わったことがないか尋ねて見てください。たとえ、身体的な苦痛とか友の不実さとか感心な行動に対する曲解とかがあっても、(しばらくの間こういった苦悩に慣れて来ると)私たちの心は慰めや敬虔な諦念に対する報いが密かに湧き上がって来ることになります。現世の悪は遠くにあるゴツゴツとして不毛な岩や絶壁のように見えますが、近づいてみると、狭い肥沃な場所と爽やかな泉が自然の厳しさといびつさと混ざり合っているのが分かります。

最後に、つぎのように考えることで元気づけられます。恐れるものが私たちの元に届かないように、私たちも恐れるものに達することはないのです。私たちの生命は目に見えているあの恐ろしい地点にまで届くことはありません。私たち人間の墮落をご存知で、限度をこえて誇るようなことをさせない神は⁶⁾、しばしば喜んで思いやりのある厳しさをお示しになって、私たちの肉体から魂と悲惨さを一緒にして引き離されるのです。

神の助けを楽しみに待ちますと、私たちが想像しがちなあの絶壁から落下する危険はありません。綱の上を歩く人たちのように、目を一点に据えれば、安全に前進することが出来ます。一方、無分別あるいは臆病になって両側に目をやっけてしまいますと、確実に私たちは滅びてしまいます。

第616号 1714年11月5日(火曜日)

【ティッケル】

気取り屋のコッタはほんのつまらない奴に過ぎない。

(マルティアリス)¹⁾

冗談というものは真顔で発せられるときほど洗練されたものはない、とキケロが言っています²⁾。言葉を発する前に、楽しい思いが表情に出ますと、すぐにその予測が付き、驚きを与えるというメリットを無くしてしまいます。機知やユーモアが、軽い言い回しとか決まり文句といった類の言葉ではうまく伝わらないのは言うまでもありません。嘲笑が手厳しいものになるのは厳粛さに包まれているときです。真のユーモアは思いにあり、奇妙な状況と非凡な光を当てた観念を表現することから生じます。楽しい思いはそれが持つ本来の魅力という力が発揮されることで私たちの心を打ち、その陽気さは一般に、ユーモアや冗談をひけらかす人たちの間で流行っている馬鹿げた言葉遣いによって高められるというよりはむしろ鼻につくことになります。この手の人たちはベテン師と同じことで、人に異様な習性を植え付けて才人にしてしまいます。

平凡な読者の楽しみである笑劇の作者たちには一般に、機知よりも快活な小生意気な言

6) 『コリント人への第一の手紙』第10章第13節。

1) マルティアリス『警句』1.9.2

2) キケロ『弁論家について』2.71.289

い回しが溢れています。

最近この種の著述を目にしました。とても活気に満ちたものを感じましたので、その著述を見せてくれた紳士にその写しを求めずにはいられませんでした。これは国王の戴冠式³⁾の喜びに接した田舎の才人が書いたものです。

2時過ぎ、霜の降りた朝⁴⁾、親愛なるジャックへ

小生は尊敬すべき方とその勇士たちと一緒に5ガロンほど飲み交わして先ほど別れたところです。小生がうまく彼らをまいて逃げ出すまでには、お偉方は全員かなり酔っ払っていました。友人の参事会員は火が消えるころにはほろ酔い加減でした。弁護士とその他2、3人の快活な人たちが一緒でした。医師の出る幕はありませんでした。

夜9時、私たちはバビロンの娼婦に火をつけました⁵⁾。悪魔が驚くほどうまく演じました。悪魔はそれで出世しました。小さな犬には6ペンスずつ渡しました。年老いた誠実なイングランドのブラウンは酔っ払い、百発の打ち上げ花火に合わせて忠誠を誓いました。民衆はひざまずいて王様の健康を祝して乾杯をしました。彼らは大量のビールを一気に飲み干しました。哀れなトム・タイラーは流星花火が終わるころにはほぼ泥酔状態で、王様の健康を祝して乾杯しながら鼻から倒れ込み、鼻先をつぶしてしまいました。民衆は真夜中過ぎまで忠誠を誓いましたが、その頃になるとお酒が足りないと言い出して少々手の負えない状態になりました。彼らは判事を唾然とさせるほどでしたが、書記が助けの手を差し伸べ、白黒をはっきりさせました。

平常心を無くして元気づけられている小生は、とてもくつろいで酒盛りをしているご婦人方を訪ねました。市長夫人が王様の英語に狙いをつけました。早口ということでした。

民衆の誰もが帽子を対句の形で気取ってかぶっていたというのをお知らせするのを失念しました。枢密顧問官たちはその時のために私たちにテープを送り届けて来ました。

プロテスタントへの熱意を示すサー・リチャードは大かがり火用のタールひと樽と舞踏会1回分の費用を自分持ちにしました⁶⁾。小生は勲爵士宅の大広間を覗き、とても綺麗な独身女性たちの一団を目にしました。その中には小生の愛する寡婦もいて、彼女がカントリーダンスをしている姿はとても際立ったものでした。

どうか古くからある町の良民たちはもちろん国王の忠実な臣下がいつまでも国王を愛しますように。それではまた。

3) 1714年10月20日、ジョージ1世の戴冠式が挙行された。

4) 夜回りの台詞。

5) 当時、プロテスタントはさかんに教皇、悪魔、偽善者をやり玉に挙げた。

6) これはプロテスタントへのスティールの激しい情熱と考える編集者もいたが、スティールが爵位を授けられたのは1715年の4月なので、サー・リチャードは特にスティールを指しているとは考えられない。

第617号 1714年11月8日（月曜日）

【ティッケル】

曲がった角がバッカスの供の女たちに狂気を吹き込み、
 剣で横柄な子牛を殺めたバッカスは空高く舞い上がり、
 首から傲慢な頭をはねた。女司祭マエナスは蔦で飾って
 斑の山ネコを引き連れ、エヴィオンが周りを囲んだ。
 森や湖のエヴィオンがこだまを取り戻すのだ。(ペルシウス)¹⁾

ユーモアには極端な二つの方法があります。一つは私が前回の紙面で述べた無遠慮な言葉遣いをする事で、もう一つは学識のある言葉から引き出した不自然で気取った表現を用いることです。前者は町の大半の人たちが、後者は大学人の大半が経験します。

これから紹介する学術的なユーモアを示した手紙ほど以上のことを例証するものはありません。この手紙は大学の若い紳士が友人に宛てたもので、前回の紙面で公表した生きの良い書簡と同じ場所から届いたものです。

親愛なる友よ

三度目の夜警だが、大半はインド諸島の選り抜きの品物が詰まっている大きな磁器を囲んでいる。小生は四角いテーブルで職杖奉持者の真向かいに陣取った。この敬うべきお触れ役の顔つきはしきたり通りこの喜ばしい機会を与えられてとても輝いていた。ロンドン市の黒柱である市長と参事会員たちは揺らぎ始めた。もし高官たちの誰かが酒の補強を要求するほどはっきりと言葉を発することが出来ていれば、今頃は全員テーブルの下でくたばっていたに違いない。

今夜の荘厳な祝賀会はドラム奏者たちの騒々しい喜びで幕を開けた。彼らはドラムの轟音によって民衆たちが階級に従って登場する合図を送ったのだ。彼らはベルの音が合奏団に鳴り響く間に、旋律的なドラムの音に合わせて素早く集まったのだ。干し草の山が炎を予測させて民衆を元気づけた。銃が前口上を発するとすぐに、空は人工の稲妻や星で明るくなり、目抜き通りは端から端まで無数のロウソクで照らし出された。我々は非常に騒がしくなるまで慈善をちびちび飲む民衆のために祝儀を集めた。肘に黒ずんだ小悪魔をつけた偽のローマ教皇がいた。彼は悪魔のようなささやきとほのめかしによって、聖下を火へと誘い、そのまま放置した。民衆はクラブにとっても辛辣で、老紳士の三重の被り物を数回叩いた。トム・タイラーのご面相は打ち上げ花火が落ちて来て少し傷つき、もう少しで鼻が台無しになるところだった。人々の陽気さは常軌を逸したものになったので、友人の治安判事の出番となった。彼は書記の助けを借りて、つぎの四季裁判所に文書にして提出するために名前と罪名を書き記した。

前記の手紙にイタリアの詩人から翻訳したつぎの詩を付け加えることとする。この詩人

1) ペルシウス『諷刺』1.99-102

は当時のクリーヴランドで、多くのファンがいたのだ²⁾。主題は教皇レオの治世に起こった出来事となっている。サンタンジェロ城で準備していた花火が稲光で発火しまだ時間が来ないのに打ち上がり始めたのだ。作者は私がすでに散文で例示したのと同じ文体で書いている。各行とも謎になっており、読者は犬儒派の家が桶であり、バッカスが振り当てられている衣服は大樽だといったことが分かるまでに、二度三度考えないといけないのだ³⁾。

夜そして天、終日キュプロプスのようにして、
 今や、アルゴスがすべての目を開いた、
 まばゆいローマの明るい窓々が喜びを示そうとしたとき。
 赤々と燃えるような光の鎖が屋根にからみつき、
 その頸部に混ざり合った光がきらめいた。
 街路から犬儒派の家が動いてやって来て、
 バッカスの衣服が輝きを増した。

それまで隠れていた大きな積み薪が姿を見せ、
 トスカナの積み薪が最後にその荷を露わにした。
 ここで誇り高きローマのエトナ山の頂が首をもたげ、
 頂から巨人たちが勢いよく飛び出し空に押し寄せる。

群衆が今か今かとその時を待ち構え、
 待ち疲れた目を聳え立つ山に向けていると、
 夥しい数の鉄の口が声を上げ、一斉に恐ろしい轟音を立てる。
 小型の大砲がソプラノを奏で、低く太い大砲がバスを担当する。
 労働に従事する積み薪が今力を振り絞り、
 その労苦を、身を持って示し、天に向かって炎を届ける。
 雲が天を視界からさえぎり、星の光を消し、あらゆる光を消した。
 今や本物の雷が空でゴロゴロと鳴り、
 ローマは軽蔑的な不平を漏らしながらそれに挑む。
 また、ローマはそれに応じた挑戦も拒まない。
 だが、双方が完全に調和して奏でると、
 天と地が相拮抗して共鳴すると、聞き手の感覚は
 怪しげな音を混同する。稲妻の破裂音を我慢するのか、
 それとも、大砲の破裂音が耳を害するのか。
 雲が激怒したのは引き裂かれ身もだえする金属によってなのか、

2) ジョン・クリーヴランド (1613-58) は王党派詩人。

3) Strada, *Prolusiones Academica Academia secunda*

それとも、ローマの金属に閉じ込められた
身もだえする雲によってなのか。
ああ詩神よ、予期せぬ災難がすべての出来事を順次語ってくれる。
背の高い木々がハドリアヌスの塔を取り巻いている、
紙の花冠をつけた架空の木々が。
この木々は春を知らない、だが、幹が火の中で芽吹き、
金色に彩られた花をつけると、赤々と燃える葉が頭上に現れ、
幹に枝となった炎が広がる。
本物の雷が大空を切り裂き、天の屋根が引き裂かれると、
破裂状態の只中で三又状の舌がだらりと垂れ、空中の櫓に落ちる。
ここで木々は燃え、花冠にも火が付き、夥しい稲妻が一挙に発生する。
燃え盛る弓の射手の一隊が上空に出現し、
きらきらと輝く槍と光り輝く槍兵たちが舞上がり、
雲の中でピカッと光り、空中できらめく。
七重の盾が天を守り、鈍くなった武器を持ち帰らせ、
武器は不承不承退き、落下して行く、そして、
その魂、硫黄色の魂を放射しうなるような音を立てる。

私たちは喜びを持ってこの華やかなショーを見た、
今まで見物人であった天は役者となり、
得意げにあなたを楽しませる。教皇レオの火が登場するとき、
天自体が立役者になるのがふさわしいのだ。
天自体が驚異を見せ、上位の天体は下位の天体と意見を
一致させるべきなのだ。

第618号 1714年11月10日（水曜日）

【フィリップス、ティッケル】

言葉をリズムに嵌め込んで、それで、詩だとは君だって
敢えていわないことだろうし、我々の書く「会話調」に近い詩など
を作っても、それで詩人とはいわないだろう。(ホラティウス)¹⁾

観察者殿

貴殿は先の2回の紙面にて非常に異なった文体の注目に値する手紙を紹介なさっていましたので、小生はこの機会を捉えて書簡体形式の詩の書き方について若干の意見を述べることにします。これ自体詩と言えるものであり、詩の技法という点においては小生の手に

1) ホラティウス『諷刺』1.4.40-42。ここも鈴木一郎訳を一部改変して借用。

落ちるほどのことはさほどありません。また、どんな時代やどんな国でも、他の種類の詩作ほど育まれたこともありません。有能な人なら、気が向きさえすれば、あらゆる主題について機知と言語で飾り立てることが出来る韻文の手紙を書くかも知れませんし、ふさわしい変化をつけることでその手紙を新しく心地よいものに変えるかも知れません。ところで現在、書簡体形式の詩についてお話ししていますが、古代の人たちの間で活用され、現代の人たちがお手本としている類いの書き方だけを取り上げるのだと理解していただきたいものです。これらは二種類に要約することが可能です。一つは恋文や友情の手紙や哀悼の手紙となり、もう一つは精通した、批評的、道徳的と呼ばれるのにふさわしい韻文の書簡がそうです。これに陽気やユーモアに関する手紙を付け加えることが出来るかも知れません。前者ではオウィディウス、後者ではホラティウスが最適の嚆矢となります。

オウィディウス風のやり方で成功を収めたいと考えている人は、まず己の心をしっかり検証し、読者を感動させるのは機知ではなく心情の繊細さと優しさなので、(とりわけ温和な人たちは)その感情がゆったりとしたものでなくてはなりません²⁾。同様に、その根柢は穏やかなものであり、詩脚はすべてなだらかで苛立ったものでなくてはなりません。

ホラティウス流の書簡を書くために求められる適性はこれとは全く異なります。ホラティウス風の詩で秀でようとする人は力強い男性韻をしっかりと蓄えていなくてはなりません。これに詩作と時代の支配的な気質に対する洞察力ならびに人間に対する徹底的な知識を併せ持つ必要があります。わがホラティウスは彼の知性に高潔な道徳観を添え、人生の明るい面と暗い面に対する鋭敏な考えを詰め込んでいるに違いありません。彼は洗練されたからかいに精通しており、会話の愚かさだけでなく繊細さについて理解しているに違いありません。彼は分かり易く簡潔な表現方法だけでなく、生き生きとした機知の運び方を身につけているに違いありません。彼は隠遁者といった雰囲気は何一つさらけ出すことはなく、徹頭徹尾世事に通じた人物に見えるに違いありません。彼の例証、比較、そしてイメージの大半は日常生活から引き出されているに違いありません。思慮深く挿入されている贅辞だけでなく、風刺や非難の筆致がこの種の作詩に素晴らしい活力と光彩を添えます。ところで、わがホラティウスは書簡詩を書いているとき、あまり馴染みのあるものではありませんが彼が韻文を書いているのだということを思い出させ、対象の性質上必然的に必要とされる箇所以外では散文や俗悪な言い回しに陥らないように特別の注意を払っているのです。この点で、批評家たちの中にはホラティウスが作詩法に怠慢過ぎるだけでなく、無頓着になるときがあると考える人たちがいるのです。これについてはホラティウス自身が気づいていたように思われます³⁾。

付言しておかなくてはならない点は、これら二つの書き方が他の詩歌と同様に、しかるべき才能を有した人物の手にかかれれば面白いものになり得るし、後者つまりホラティウス

2) アディソンはオウィディウスの注釈で、彼の詩の情熱的な話し言葉を評価しているとのこと。

3) この点についてカゾボン(1599-1671)はホラティウスを批判したが、ドライデンは『諷刺について』の中で、ホラティウスを擁護している。カゾボン(1599-1671)はオックスフォード大学で学んだことのあるフランスの古典学者。

流の場合は特に啓発的なものになるように扱うことが出来るかも知れないということです。
草々

聡明な寄稿者の意見に一言二言付け加えることにします。第一に、この上なく崇高な主題は、ホラティウスのアウグストゥスへの名高い書簡におけるように⁴⁾、しばしば書簡体で扱うように留意すべきだということです。私たちはホラティウスの華やかさに不意を突かれ、彼の意図でそうなったというよりはむしろ主題に身を売っているように思えます。彼は親しさと偉大さが入り混じったお忍びの王を訪問しているように見えます。この種の作品では、主題の威厳がある種の靈感によって一見偶発的と思われる描写や気持へとせかすときには、詩人が瞑想にふけり、潔く自然な手紙の文体に後退するのが普通です。

ここで国王の戴冠についてユースデン氏がつい先日発表した書簡詩⁵⁾について触れます。これを見ると、数多くの気高く美しい筆致がありますが、読者は以上述べたルールがとても適切に守られていることがお分かりいただけると思います。

第619号 1714年11月12日（金曜日）

【ティッケル】

丁字型の剣に規律を拒否する無法な軍隊を侵略させ、
不必要な厳しさの増大を抑えさせるのです。(ウエルギリウス)¹⁾

私はしばしば観察者である私宛に届いていて、活用していない手紙を一冊にまとめて公表したら、興味深いコレクションになるだろうと考えています²⁾。届いています多様な話題、文体、意見、情報を知れば、好奇心旺盛なあるいは暇を持て余している読者は知らず知らず何頁にもわたって目を通すことになるに違いありません。こういった題材から秘密の歴史をかき集め、出版させて書籍商を参事会員にする著者を何名か知っています³⁾。それゆえ、私は原本を子孫のために供するために、特別の部屋に保管することにします。だが今は、甘んじて最近届いた手紙の受け取りを認めたいと思います。この手紙の著者たちはしきりに返事を待ち望んでいる訳です。

コーンヒルから届いたカリッサの手紙⁴⁾は占星術師の術についての疑念を取り除いて欲しいと願っています。要するに、口の利けない男⁵⁾について回答が欲しいという訳です。

4) ホラティウス『書簡詩』2.1

5) ユースデンの詩は第606号で広告が掲載された。

1) ウェルギリウス『農耕詩』2.369-70

2) 1725年、リチャード・リリーはスティールの許可を得て3百通近い手紙を出版した。

3) 書籍商で、この時は参事会員となっており、後にロンドン市長となったジョン・バーバーへの言及。

4) ティッケル文書に残っているカリッサの手紙によると、彼女はアディソンに占星術、手相占い、人相学について意見を求めている。

5) ダンカン・キャンベルのこと。第31号に登場。

彼の言う「恋の事件」⁶⁾を恋の詭弁家⁷⁾に提案しているジェイ・シーは、これは良心の問題なので教区牧師に話をすべきだと考えています。

10月26日付の厳格な後見人と思いやりのない兄について不満を述べる気の毒な若い婦人の手紙については、彼女が喜んでもっと几帳面にならない限り、私としてはご多幸を祈るしかありません。

名前は忘れましたが、鬢の復権で名高いある紳士の嘆願は、小間物の検閲官に委ねます⁸⁾。

散髪屋や靴磨きたちの安息日の冒瀆に対するティー・シーの抗議は、風習矯正協会⁹⁾に申し出るほうが賢明です。

フェンシングについての学識ある労作は著者にお返ししました。

大学の本への掲載を拒絶されたラテン語の詩を発表して欲しいと依頼して来たオックスフォード大学の紳士に対しての返事は「原稿を家の奥深くしまい、九年目まで待つこと」¹⁰⁾となります。

大きなスカーフを擁護して師のガウンや長袖¹¹⁾を批判している学識ある寄稿者への返事は、「私は聖職者間の反目を煽る積りはない」となります。

パーティ熱について同性の女性に怒っている婦人に対する返事は、「そのご婦人は端麗と見なされていることに抗議している婦人ではないのですか」となります。

(愛人についてソネットを作り、直ぐにでも活字にして欲しいと願っている)トム・トゥルーラブには私が恋をしたのは随分昔のことだということを考慮して貰いたいものです。

旧友である室内装飾業者からのとても感銘深い手紙に返事をしたいと思います。彼はスウェーデン王の生死について今でも知りたがっているのですが、「彼は生きていると思う」と彼の耳元でささやきます¹²⁾。

ダパーウィット氏¹³⁾は寝取られ男の話は際限のないものになることを考えて見てください。

彼自身がとても後悔していると告白しているモニミアの恋人の切なる願いについては、本紙に「忠実なるカスタリオ」という名前で記録に残します¹⁴⁾。

チャールズ・コックシュアの嘆願はとても筋の通ったものですが却下します。

フィランダーの請願書は直ちに公表されることを願っていますが後回しとします。

6) この手紙もティッケル文書に残っている。

7) 恋の詭弁家については第591号参照。

8) 小間物については第16号参照。

9) 風習矯正協会については第8号参照。

10) ホラティウス『恋の技法』388

11) ジョン・カーギーによるエドワード・フィリップス『言葉の新しい世界』の改訂版(1706)によると、長袖のガウンなどは華美になるので着用が禁止された。

12) 室内装飾業者については第50号、スウェーデン王カール12世については第43号参照。

13) ダパーウィットについては第482号参照。

14) モニミアの恋人については第613号参照。この恋人の手紙もティッケル文書に残っている。

エス・アールにはつぎの手紙では「一体全体」という表現を頻出させないように希望します。

ピー・エスの手紙は全文を活字にするか焼却処分にするかのいずれかを希望していますが、全文を活字にしないことにします。